

経済学院ダブルディグリー 国際交流の観点から

経済学研究院
高井哲彦

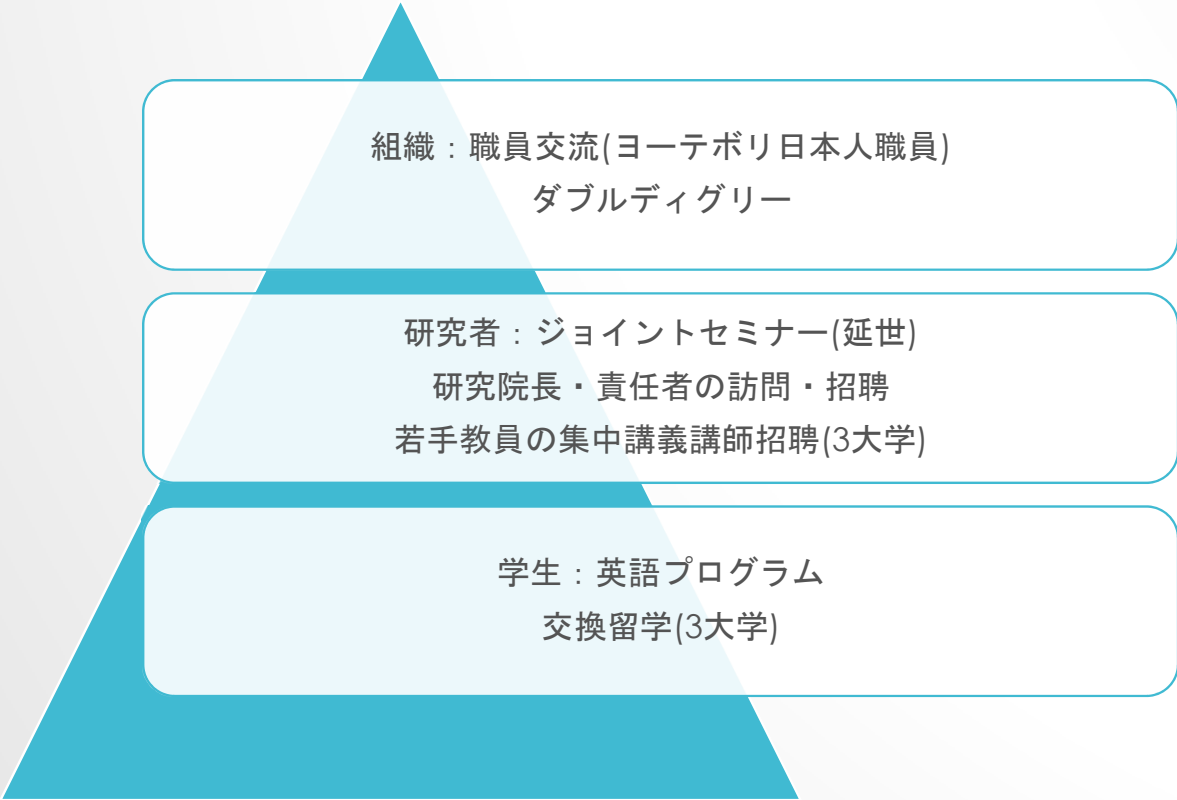
内容

1.助走期と国際交流

2.助走期と国際交流

- ・ 離陸期とカリキュラム再考
- ・ 実現期と試行錯誤
- ・ まとめ：課題と展望

1. 北大経済の国際交流方針



組織：職員交流(ヨーテボリ日本人職員)
ダブルディグリー

研究者：ジョイントセミナー(延世)
研究院長・責任者の訪問・招聘
若手教員の集中講義講師招聘(3大学)

学生：英語プログラム
交換留学(3大学)

2. 助走期とパートナー交流

ヨーテボリ大 学

- 日本研究者集団
- 日本語研修プログラム
- 日本人職員
- 大学院学費の有料化

延世大学

- ジョイント・セミナー
- 最優秀学生の海外大学院留学

国立台湾大学

- 中国人留学生受入の人数制限
- 国際学界での日台協働

3. 離陸期とカリキュラム



実現期と試行錯誤

ヨーテボリ大 学

- 必修科目数が多い
- 修士論文は半年間で共著執筆

延世大学

- 1年次に必修科目修了試験
- 奨学金が年度単位

国立台湾大学

- 修士論文が単位化されていない

まとめ：課題と展望

幸運

- 北大経済教員に多数の海外PhD
- パートナーとのWin-Win

学んだこと

- 学生・研究者・組織の交流深化
- 各国最先端動向の「輸血」

課題と検討

- 広報・制度化：Global Economist?
- ゼミ・修論指導の再考